

平成20年度秋期 アプリケーションエンジニア試験分析速報

2008.10.20 (株)アイテック 情報技術教育研究部

1. 試験全体講評

最後のアプリケーションエンジニア試験ということで、新試験制度を見据えた出題がされるのでは、と予想しましたが、そのような出題傾向はありませんでした。

難易度については、午前試験が例年よりも低め、午後試験は問1と問2の必須問題が例年よりも低めで問3と問4の選択問題は例年よりも高め、午後試験は例年よりも高めとなっています。午後試験において、過去に出題されたトピックが繰り返して出題されていない点を考慮すると、全体では難易度が上がったと判断します。

2. 午前試験講評

今年は、例年以上に過去問題やそれに類似した問題が出題されているため、過去問題を中心に学習するという試験対策が成功したと判断します。新規問題としては、問25のITILが推奨するSLAの項目、問39のJIS Q 27002:2006、問47の税効果会計などがあります。定番問題としては、問8のデータマイニングが出題されています。

難易度は例年に比べて低めと判断します。過去問題とそれに準ずる問題が例年以上に出題されたことが影響していると判断します。

3. 午後試験講評

去年は必須問題である問1と問2の難易度が例年よりも高かったのですが、今年は是正されて、去年と比べて設問1と設問2の難易度が低くなっています。ただし、例年、問4の難易度が問3よりも低かったのですが、今年は問4の方が高くなっています。

問1 システムの再構築

システムの再構築というテーマですが、具体的な業務処理については書かれていないので、特に読解力は必要とされない問題です。したがって、解答時間は25分で難易度は低いです。

難しい設問は設問3です。この設問を正解するために留意すべき記述は、表1の目的別ファイルの「新システムの稼働初日に限って紙で出力したものだけを提供し、ユーザが直接参照することはできない」という記述です。この記述から目的別ファイルは移行対象から外れていることが分かります。

問2 在庫管理システムの設計

記述式問題となっていますが、穴埋め問題や、それに準ずる問題で構成されている問題です。いかに早く問題文からキーワードを探すかがポイントになるでしょう。難易度の高

い設問はありませんが、この問題で一番注意すべき点は、設問 1 では機能名を、設問 2 の(2)では処理名が問われている点です。難易度は 25 分の解答時間で中程度です。

問 3 コンビニエンスストアにおける発注業務の効率改善

問題文のページ数が 6 ページで図が少なく内容が濃い問題です。表 3 の穴埋め問題では、売上見込数量を書きってしまうようなケアレスミスを注意しなければなりません。難易度は解答時間 40 分で中程度です。

難易度の高い設問は設問 3 です。システム変更上のメリットについて問われていますが、14 ページの〔改善システムの稼働〕の始めに「システムを変更し」と書かれていることから、システム移行に関する問いであることが分かります。システム移行方式は段階的移行方式と一斉移行方式がありますが、設問の記述から、このケースでは前者の移行方式にメリットがあることが分かります。

問 4 ホテル管理システムの設計

問 4 の難易度は例年、問 3 に比べて低いのですが、今年は、問 4 の難易度が高いです。図 1 のクラス図において、属性が省略されているので、難しい問題となっています。難易度は解答時間 40 分で高いです。

この問題では、図 1 においてクラス間の多重度から導くことができる外部キーなどが省略されていることが分かれば、図 2 のシーケンス図の意味が理解できます。

4. 午後 試験講評

現行試験制度の最後ということで、新試験制度を見据えたかたちで出題されると予想しましたが、組み込みシステムを意識した問題作りはされていませんでした。3 問はそれぞれ、問 1「システム要件定義の準備について」、問 2「フレームワークの利用について」、問 3「開発工数の見積りについて」という出題となっています。

アプリケーションエンジニア試験の午後 では過去のトピックが繰り返して出題される傾向にありましたが、今回は、問 1 を含めて、すべて新規のトピックと言ってよいでしょう。ポイントは、3 問中 2 問において論述する局面が問題文に指定されている点です。問 1 の局面は、要件定義におけるユーザとの打ち合わせ前の局面、問 3 の局面は、要件定義が終了した局面です。この 2 問では局面を意識した論述が求められます。

問 1 システム要件定義の準備について

問題文に対策の例が 4 例も具体的に挙げられているので、論文のトピックとしては、それらを活用すればよいでしょう。ただし、設問文において、「メンバの経験やスキル、対象業務の特徴などを考慮して」ということが書かれているので、これらを考慮する記述など、出題の趣旨に沿って書いていることを明示する展開が必要です。具体的には「業務におけ

る判断が複雑であるという対象業務の特徴を考慮して」などの表現をする必要があります。

問2 フレームワークの利用について

論文設計の際に注意しなければならない点は、設計内容について問われているのではないということです。対策の例として4例挙がっていますが、どれも施策である点に留意してください。この問題でも、問題文に挙げられている四つの例を活用して、論述すればよいでしょう。

ただし、設問文において、「システムの規模、システムの特徴、開発要員のスキルなどを考慮して」ということが書かれているので、このキーセンテンスを流用して、出題の趣旨に沿って書いていることを明示する展開が必要です。具体的には「品質特性のうち特に信頼性が重視されるというシステムの特徴を考慮して」などの表現をする必要があります。

問3 開発工数の見積りについて

この問題では、設問イにおいて「対象業務やシステムの特徴を踏まえて」と書かれているので、その旨を明示した論旨展開が必要となります。具体的には、設問アで対象業務やシステムの特徴を明示して、それを設問イの論旨展開で活用します。設問イにおいて問われている見積りに影響を与える要素や、見積りを正確に行う施策は、問題文に書かれていますから、合格論文のポイントは、「踏まえる」という展開を論文に盛り込めるか、という点にあります。

以上